



プラカードを掲げ、勢揃いした47チーム188人の選手たち

第44回 交通安全子供自転車全国大会開催

(財)JKA(競輪公益資金)補助事業

山形県尾花沢市立尾花沢小学校チームが初の団体優勝を飾る

第44回交通安全子供自転車全国大会が8月6日(木)、東京・江東区有明の東京ビッグサイトで開催された。

当日は各都道府県の代表である小学校児童が集まり、自転車の安全走行に関する知識と技能を競った。

レベルの高い接戦の末、団体優勝は山形県の尾花沢市立尾花沢小学校、個人優勝は宮城県の登米市立北方小学校の及川隼人選手が勝ち取った。



奥村篤壽雄・(財)全日本交通安全協会理事長の合図により競技がスタートした



個人優勝を果たした宮城県・及川選手



個人第二位に輝いた和歌山県・田中選手



団体優勝を果たした山形県・尾花沢市立尾花沢小学校チーム



団体第二位の表彰を受ける
山形県北杜市立高根東小学校
チーム



第44回 交通安全子供自転車全国大会



「Bの字走行」はコースの線に触れず、ペダルを正確に踏むよう注意
(福井県・小田島選手)



駐車車両の横を慎重に通過する(佐賀県・堀内選手)



ピンを倒さずに走行する「ジグザグ走行」
(埼玉県・高山選手)



会場に設置された自転車シミュレーター(本田技研工業(株))に挑戦(静岡県・浜松市立平山小学校チーム)

第44回 交通安全子供自転車全国大会開催



カラードキュメント

「交通安全子供自転車全国大会」は、子供たちに自転車の安全走行に関する知識と技能を身につけさせるとともに、交通安全についての関心を高め、さらにはそれを習慣化させること、によって交通事故防止を図ろうと、全国の小学校児童を対象に開催されているものである。

大会当日は、都道府県大会で優勝した四十七チーム(百八十八人)の選手とその関係者が、会場となった東京ビッグサイトに集まった。



学科テストに取り組む選手たち



見通しの悪い曲がり角で安全確認(大阪府・小鷹狩選手)



幅の狭い板の上を通過する「二枚の板乗り走行」(岩手県・菊池選手)

学科テスト

午前九時から会議棟レセプションホールで行われた学科テストでは、道路交通法(教則)等に定められた交通ルールについての二十問、道路標識・標示に関する二十問、自転車の安全な乗り方に関する二十問の計六十問(持ち点六百点)が出題された。試験実施時間は三十分間で、今回より回答はマークシート方式を採用。百八十八人中三十七人が満点(減点なし)だった。

開会式

学科テスト終了後、東棟第一ホールで開会式、実技テスト、表彰式が行われた。

開会式では、昨年団体優勝を果たした福島県の阿波市立林小学校が優勝旗を返還し、奥村萬壽雄・勸全日本交通安全協会理事長が開会のあいさつを行った。深草雅利・警察庁長官官房審議官のあいさつに続いて中澤見山・審判長(勸全日本交通安全協会常務理事)が選手たちに指示を出した。

実技テスト

実技テストでは、選手はヘルメットを着用の上、「安全走行テスト」と「技能走行テスト」の二つのコースを走行した。走行順は、抽選により、福島県チームからの建抽選となった。奥村萬壽雄理事長の合図で猪苗代町立翁島小学校の古川有季選手がスタートし、午前中は各チームの第一走者と第二走者、午後には第三走者と第四走者が競技に挑んだ。

「安全走行テスト」は、信号のある交差点とない交差点等での右左折や、横断歩道、踏切など、さまざまな交通場面を想定したコースで自転車の正しい乗り方と安全な走行状況



綱ばしの上を安全に通過する「デコボコ道走行」
(島根県・遠藤選手)

表彰式

午後二時五十分から行われた表彰式では、団体入賞校十校と個人入賞者六人、優秀賞(個人入賞者以外の選手で、学科テストと実技テストがすべて満点の選手)六人に各賞が贈られた。

なお、今回の大会に先立ち、全国で地区大会(千三百二十校から千七百六十チームが参加)、都道府県大会(地区大会で選抜された七百四十一校の八百六十七チームが参加)が開催された。

主催 勸全日本交通安全協会、警察庁後援 内閣府 文部科学省、日本放送協会、朝日新聞社、独立行政法人 日本スポーツ振興センター、全国連合小学校長会、日本PTA全国協議会、勸全日本自転車普及協会、勸全交通安全管理技術協会、日本自転車軽自動車商協同組合連合会、(財)JKA(競輪公益資金)補助事業

個人入賞者

順位	氏名	都道府県	学校名
優勝	及川 隼人	宮城県	登米市立北方小学校
第2位	田中 宏明	和歌山県	橋本市立恋野小学校
第3位	福富 愛理	徳島県	阿波市立林小学校
第4位	西尾 志穂	山形県	尾花沢市立尾花沢小学校
第5位	永沢 和輝	山形県	尾花沢市立尾花沢小学校
第6位	坂本 寛太	山梨県	北杜市立高根東小学校
優秀賞	遠藤 めぐみ	栃木県	大田原市立大田原小学校
	竹田 桂二	京都府	亀岡市立千代川小学校
	小宮山 優生	山梨県	北杜市立高根東小学校
	永田 美花	京都府	亀岡市立千代川小学校
	岩本 あずさ	佐賀県	鳥栖市立基里小学校
	堀内 聖	佐賀県	鳥栖市立基里小学校

団体入賞校

順位	都道府県	学校名	減点
優勝	山形県	尾花沢市立尾花沢小学校	25
第2位	山梨県	北杜市立高根東小学校	40
第3位	栃木県	大田原市立大田原小学校	40
第4位	沖縄県	石垣市立明石小学校	45
第5位	京都府	亀岡市立千代川小学校	60
第6位	徳島県	阿波市立林小学校	60
第7位	奈良県	河合町立河合第三小学校	65
第8位	福井県	鯖江市立吉川小学校	70
第9位	佐賀県	鳥栖市立基里小学校	70
第10位	神奈川県	小田原市立桜井小学校	75

※減点同数の場合は安全走行テストの減点合計が少ないチームが上位となった

第44回 交通安全 子供自転車全国大会開催



カラー
ドキュメント



団体優勝 山形県 尾花沢市立尾花沢小学校



本間 千陽 選手

2年間、練習を重ねてきた努力が実り、うれしいです。とくに、毎日学科の勉強をするのは大変でした。出場した選手は皆6年生なので、自転車の安全な乗り方の伝統を今度は下級生に引き継いでいきたいです。



永沢 和輝 選手(個人5位)

毎日早朝から練習をしてきました。苦手な「遅乗り」は一所懸命練習することで上手にできるようになり、自信ができました。今後は友達にも自転車の正しい安全な乗り方を教えてあげたいと思います。



熊谷 翔太 選手

2年間、学校の自転車クラブで練習してきました。得意科目は学科で、苦手だった「S字走行」は、毎日繰り返し練習しました。全国大会で優勝できた経験を、今後の生活の中でも活かして頑張っていきたいです。



西尾 志穂 選手(個人4位)

苦手な課題は先生に基本を教えていただき、自分でも努力して克服しました。この大会の目的は、自転車の安全な乗り方を身につけ、事故に遭わないことだと思います。今後も事故に遭わないように頑張ります。



柏倉常彦先生のお話

選手は「自転車クラブ」に所属し、年間を通して練習を積んでいます。補欠を含め、選手たちは本当によく頑張ってくれました。当校は12年間、山形県代表として全国大会に連続出場してきましたが、今回初めて優勝することができました。前任の先生方のご指導の積み重ねと、保護者の皆様のご協力に感謝しています。



本間千陽選手の走行



永沢和輝選手の走行



熊谷翔太選手の走行



西尾志穂選手の走行

個人優勝 宮城県 登米市立北方小学校 及川隼人選手



優勝できて本当にうれしいです。両親が一番喜んでくれていると思います。3年間、時には眠くなるまで練習を重ねてきた甲斐がありました。苦手な「遅乗り」は、とくに練習を繰り返しました。今日は、監督の「学科は問題を最後までちゃんと読むように。実技は自分ならできる、という自信を持ってやるように」というアドバイスを守って頑張りました。

コーチでもあるお父さんと優勝を喜び及川選手

